



第 33 回 ロータリー月例報告書

2023 年 5 月

ニューヘイブンでも満開の桜を鑑賞できる公園がキャンパス近くにあり、年に一度屋台も出揃う桜祭りが開催されます。第 33 回目の月例報告書では 2023 年 4 月から 5 月までの生活状況をご紹介します。

今月は 2 本目の論文草案作成に集中しました。先生と議論を重ね、原稿に載せるべき実験結果を決定し、そのあと共同研究者と個別にオンラインで話し合い最終的な折り合いをつけていきます。皆とても協力的で親切なので改めて人と環境に恵まれていると感じます。来月頭には草案をまとめ上げて先生方々に提出できるよう推し進めていきたいと思っています。今月は研究室以外でもたくさんイベントがありました。

毎年 4 月初めは学部のリクルートイベントがあり、博士課程に合格した新一年生見込みの学生がオープンキャンパスに参加しに来ます。私たちは実験室ツアーをしたり一緒に夜ご飯を食べに行ったりして頑張っ入学を勧誘します。例外を除けば国外の旅行費用は学生負担なので、これらのイベントは主にアメリカ国内に居る学生が主な対象となっています。今年の成果は、見込み学生 12 名のうちたった 4 名のみ入学を決めたことが分かりました。例年では一学年 10 名弱なので、今年はかなり少なかった年になりました。同じように、最近新しい助教授を採用するときも学部が苦勞した話を聞きました。本来なら去年に新しい助教授を化学工学部へ呼び込むために、数人の志願者へオファーを掛けたにも関わらず、みんな別の大学へ就職してしまいました。今年こそはと再度リクルートイベントを行っています。今年は昨年よりも綺麗な会議室を用意したりして、無事獲得することができたようです。この新しい先生と数人の大学院生の集まりに参加した際、とても気さくな人で色々楽しく研究や就職活動の苦勞について話してくれました。

最近同じ研究室の友達から、学部生が運営している Political Union という団体を教えてもらいました。これは毎週全国から世間で物議を醸している登壇者が大学に招待され、学生たちとディベートを行います。最後は投票も行い、登壇者か学部生かディベートの勝敗を決めるそうです。先週この会に 2024 年大統領選挙へ出馬を表明した Marianne Williamson という女性作家が登壇したので、興味本位で教えてくれた友達と参加してみました。スピリチュアルな観点から国を立て直すという題目で、とても熱心な講演でした。

また別の機会に、政治学を専攻している学生から、日本文化研究センターが日本の映画監督（深田晃司）を大学へ招き、映画鑑賞会を開いていることを聞いたのでこれにも参加してみました。土日に一作品ずつシアタールームで鑑賞し、観終わった後には監督とパネルトークを 1 時間程度しました。登場人物の役割や、場面の意図を直接監督と質疑応答でき、とても勉強になりました。これで邦画の面白さが分かったような気がしたので、後に別の日本映画上映に参加したのですが、よく分からず途中で寝ていました。

写真は日本人先輩の卒業お祝いを成田先生のアパートで行ったときに、その先輩が持ち込んできた Bread & Butter という名前の白ワインです。会は非常に楽しかったです。いつも国際ロータリー財団様の多大なご支援を有難うございます。

